



たつやなぎ けいいち 辰柳 敬一 議員

問 脱炭素社会に向けた取り組みは

答 3つの取り組みについて検討



畜ふんバイオマスで発生した熱によりマンゴーを育てている北海道鹿追町(県外行政視察・令和4年)

クリーンエネルギー 施策の展開

議員 「脱炭素社会の推進」に向けて「具体的な進め」に向けて具体的な進めをどう進めるか。

町長 脱炭素社会の推進を図るべく、次の3つの取り組みについて検討している。

一つ目は、一般家庭への太陽光発電、蓄電池等の再生可能エネルギー及び省エネルギー設備の導入支援の強化、二つ目は、地域エネルギー資源の有効利用、家畜ふん尿を地

域エネルギー資源として捉え、畜ふんバイオマスプラントによる発生した熱・電気を活かした高付加価値農産物の栽培を目指す、今後検討を進める。

三つ目は、町民へのクリーンエネルギーの安価な電力供給であり、町内で発電された電力をそのまま利用できる電力供給の仕組みを見直し、クリーンエネルギーの地産地消を目指したいと考えている。

また、これにより、町外からの企業誘致にもつなげたい。

畜産開発公社施設の 一帯的な整備

議員 畜産開発公社の育成牛舎や畜産バイオマスプラント等を一帯的に整備すべきと考えるが、町の考えを伺う。

町長 町の畜産開発公社では、育成牛舎の整備から48年が経過し、老朽化が進んでいる。

こうした状況を踏まえ「新葛巻型酪農構想」で掲げる「公共牧場の機能強化」を実現するため、



北海道上士幌町の大規模育成牛舎(県外行政視察・令和4年)

2500頭規模の新たな育成牛舎の整備を検討している。

酪農家が安心して預託できる体制と環境を整備し、併せて畜ふんバイオマスプラントを一帯的に整備することで、ふん尿処理の課題を図りたい。

これら総合的な検討を進めながら、本町の酪農が100年先まで持続できるように各種施策を講じながら基盤整備を進めていくよう考えている。



しばた いさお 柴田 勇雄 議員

問 新年度予算の編成方針は

答 人口減少対策を積極展開

当初予算 編成方針と主要事業

議員 新年度予算の編成方針と主要なソフト・ハード事業を伺う。

町長 令和6年度の編成方針としては、「人口減少対策」に向けた施策を積極的に展開し、施策の優先順位を洗い直し、明確な戦略のもと着実に目標を達成する予算として編成するよう指示したところである。

併せて、物価高騰対策に係る政策的な事業予算については、国及び県の動向を注視しながら、早期に協議・調整するよう指示している。

また、ソフト・ハードの主要事業については、最重要課題である「人口減少対策」や「地方創生」への取り組みに向け、必要な事業を盛り込んでいく考えである。

個人町民税と 資産税の動向

議員 個人町民税と固定資産税の動向を伺う。

町長 個人町民税の動向は、この10年で約220人減少している一方、収入増額は増加傾向で推移している。

今後、納税義務者数は微減の2500人前後で推移するものと思われる。1億5000万円から1億7000万円前後で推移すると予想している。

次に固定資産税では、当面の収入見込額は3億



建設事業費の償還が始まる高齢者福祉センター

基金の積み立て動向

議員 主要4基金の今後の動向について伺う。

町長 現在の主要4基金の状況は、財政調整基金は標準財政規模の20割を目安としており、残高は約7億9000万円、減債基金は地方債借入残高の10割を目安としており、残高は約9億1000万円となっている。

公共施設等整備基金においては、病院建設事業

や江刈地区水道整備事業など、公営企業が実施した大規模事業に係る企業債の償還金に充てるほか、新庁舎建設事業など大型のハード事業の財源の一部として活用している。

なお、令和4年度から病院事業、令和5年度から水道事業、令和6年度からは新庁舎建設事業の元金償還が始まり、これまでは大型事業に対する「備え」であったが、今後は基金を取り崩して「活用する」状況に移行していくものである。

こうしたことから、今後基金総額については、年々減少していく見通しであり予断を許さない状況になるが、行政サービスの水準を維持しつつ、町政発展に向けて必要な事業を推進するための財源として、引き続き計画的な基金の運用に努めていく。